

Cabinet des modes, ou, Les modes nouvelles (キャビネ・デ・モード)

→ Magasin des modes nouvelles, françaises et anglaises

(マガザン・デ・モード・ヌーヴェル)

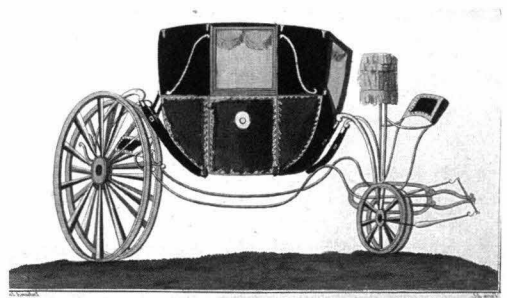
→ Journal de la mode et du goût, ou, Amusemens du sallon et de la toilette (ジュルナル・ドゥ・ラ・モード・エ・デュ・ゲー)

Paris : Buisson, 1785—1793

Hiler p. 132, 486, 561 Colas 500, 1557 Lipper. 4569

《Cabinet des modes, ou, Les modes nouvelles》

1785年11月まで新しいモードを伝える情報誌としては、フランスでは1778年以来「ギャルリー・デ・モード (Gallerie des modes)」が市場を独占していたのだが、ル・ブラン＝トッサ (Le Brun-Tossa) によって、別のモード誌の出版が始められる。それがこの「キャビネ・デ・モード」である。「ギャルリー・デ・モード」が1部につき35リーブルであったのに対し、この「キャビネ・デ・モード」は、年間24分冊の定期購読料が、わずかに21リーブルであった。判型も「ギャル



1786年19号
黄色 (赤褐色) の4—6人乗り馬車 (キャレ・ラーゼ)

リー・デ・モード」のような大判ではなく、両手のひらに収まる小型判で、何部刷られたかは定かではないが、それまでのモード伝達を果たした「ギャルリー・デ・モード」や衣装人形にとって代わって、かなりの売行きをみせたと思われる。発刊翌年には、パリ、フランスでの購読料が18リーブル、イタリア、スペイン、英国、オランダ、ドイツ、ロシアなどでも21リーブルで購読できるようになり、1785年の第1号には、「これまでのおそろしく高価だった衣装人形によらずとも、新しいモードを手頃な値段で伝えられる」という宣伝文が載せられている。

各号は16ページほどの記事と、手彩色銅版画3枚ずつからなっている。記事内容は、パリのモードの細かな説明、流行している生地名、色、また髪型に始まり、詩も載せられ、パリの催し物情報、社交界情報などもある。銅版画は、デレ (Desrais)、ピュガン (Pugin) などの下絵をデュアメル (Duhamel) が刻画したもので、男女の服飾ばかりではなく、新しい馬車や家具、食器、銀器、室内装飾、宝石のデザイン見本などもあり、それぞれに詳しい1ページ分ほどの説明がつき、当時のパリのブルジョワ生活を知る上でも興味深い。

本館には、1785年から1786年の24冊がそろっており、これは、大革命直前というモード史上の大きな移行期を知る上で、また、モード誌が急激に大衆化していく様を知る上でも、大変重要な資料
(斎藤多香子)

〔文化女子大学図書館所蔵 続西洋服飾関係欧文文献解題・目録〕より修正して転載